

パネルディスカッション議事録

○司 会	恵庭市環境政策室	室長	広中 敦
○コーディネーター	北海道大学大学院文学研究科	教授	大沼 進 氏
○パネリスト	恵庭市柏陽町西町内会	会長	茶園 利紀 氏
	オフィス上森株式会社	代表取締役	上森 ゆう子 氏
	恵庭市廃棄物管理課	課長	山本 顕

広中室長： それでは、これより「ごみ出しマナー対策の現状とこれから」と題したパネルディスカッションに入ります。まず、パネリストの紹介を行わせていただきます。向かって右側から、地域の代表者として「柏陽町西町内会長 茶園利紀 様」、不動産業界関係者として、市内で不動産業を営む「オフィス上森(株) 代表取締役 上森ゆう子 様」、最後に「当市廃棄物管理課長の山本顕」の 3 名となります。本日の講師であります大沼進先生にはコメンテーターとして参加して頂きます。それではまず各パネリストより、それぞれの立場から見たごみステーションやごみ出しマナーにおける課題や今後の対策などについて、ご発言いただきたいと思っております。恵庭市廃棄物管理課 の山本課長からお願いします。

山本課長： 本日はよろしくお願いいいたします。それではパネルディスカッションの最初の発言者ということで私の方から、まずは市内における集合住宅のごみステーション等の状況についてご説明申し上げます。集合住宅のごみステーションは設置場所を登録することとなっております。要綱を定めて一戸あたり概ね百リットルを基準として各管理会社さんに設置してもらっているというところがございます。いま話題となっているいわゆる散乱しているごみステーションだとか、不適正排出のごみステーションにつきましては収集業者から、こういう状況ですと、写真とともに報告書が毎月上がっております。その報告に基づいて市のほうから管理会社や所有者の方に清掃のお手紙を出して対応をお願いしている状況にあります。加えて収集業者からの報告だけでなく、一般市民の方や、町内会の方から対応してもらいたいという苦情が入ります。そういったときにはまた管理会社さんの方に何とか改善してもらえないかと申し上げている次第でございます。市内では集合住宅が 1500 軒弱ほどありますが、中でも苦情とか報告が継続しているのは 20 軒程度かなと思っております。管理会社さんに一生懸命取り組んで頂いてですね、1500 軒の内の 20 軒、実際はほとんどがきちんと運営されていると思うのですが、どうしてもごみの散乱だとかがあると目立って

しまうというのがあり、20軒程度の少数の物件で集合住宅全体の印象が悪くなってしまっているのかなという印象を受けております。先程も言いましたとおり、管理会社さんの方にも連絡させていただいて一生懸命取り組んで頂いているというのもあるのですが、基本的には最終的にはごみの出し方のマナー、モラルの意識のなさから起きた問題であると思うので、そういった部分では管理会社、所有者、市役所もそうですが、この入居者の対応という部分に苦慮しているかなと思っております。あと、大沼先生の話にもありましたが、地域の町内会にも衛生部長さんなり、環境美化等推進員さんなどいらっしゃいますので、そういう方も通じながら地域からも不適正になっているアパートのごみについて、対応して頂けないかという部分で働きかけですとか、お願いをしている状況です。他市に比べ恵庭市は分別や収集が厳しいのでは無いかという声もございますが、まじめに一生懸命分別して適正に出してくれている市民の方も多数いらっしゃるということもあって、どうしても市としても厳しく対応を行っている状態であります。課題としましては、分別が分かりにくいと思っている方もいらっしゃいます。特に外国人の方ですとか高齢者の方については、分別事態の理解も難しいと感じております。その辺については市としても対応策なり改善策を図っていかねば行かないと考えております。最後になりますが市としても管理会社さんや所有者さんあるいは町内会の方、地域の方だけに片付けや対応を全てして頂きたいとは考えておりません。大沼先生が先程行った地域力という言葉ですが、聞いていて大変なるほどなと思いましたが、市、地域、管理会社、所有者がですね、連携しあって臨んでいかないとこの問題については解決しないのかなと思います。簡単ですが以上でございます。

広中室長：ありがとうございました。今の話の中で市内1500軒の集合住宅のうち20～30軒が悪いというお話ありましたが、この20軒～30軒の集合住宅は本当にひどい状態です、一般にマナーが悪いと見られるのは1500軒の1割ぐらいマナーが悪いという状況であります。今の恵庭市からの話について大沼先生なにかコメントいただければと思うのですが、いかがでしょうか。

大沼教授：コメントというかももう少し教えて頂けたらなと思ったのですが、町内会の衛生部長さんや環境美化等推進員さんもアパートへ対応して下さっているという話だったのですが、そこで住民の方同士でトラブルが発生していないかというのが質問で、もし発生しているなら市としてはどういう風に間に入っているのかが気になるところで、恐らくは経験的に分かるのですが明らかに前が悪いとって一生懸命やって下さるのは分かるのですが、逆に向こうから逆切れされたりとかそういう物騒なことも時々ないわけではない。そのへんどういう風な

ことに気をつけられているかというのをもう少しお聞きしたい。

山本課長：地域と市との関係性の部分かと思いますが、環境美化等推進員は市から各町内会にお願いをして、出して頂いているのですが、基本的に直接アパートのところに行って指導をして頂いているというわけではなく、基本的に地域の中にいますので、こういうところで発生しているといういわゆる情報提供が主でございます。当然情報提供ではなくてどうしても地域として解決すべき問題だと相談を受けることもございますので、恐らくこの後茶園会長からいろいろな具体例も聞かせてもらえるかと思いますが、そういった場合も地域からの要請であれば、市と町内会で当事者の方に話をしたり対応策を協議するというような形で、集合住宅というより、いわゆるごみ屋敷問題とかそこらへんの相談の方が地域からは多いかなという印象です。

大沼教授：ありがとうございました。また後ほど全体でこの件に戻れたらと思います。

広中室長：それでは続きまして、オフィス上森株式会社、上森様よろしくお願ひいたします。

上森代表：上森です。お願いします。不動産会社の立場としてということで私は不動産会社を経営して7年になりますが、実は不動産業に携わって30年ぐらいになります。いろんな会社に勤めましたし、管理の方も経験しましたが、このごみ問題というのは昔から今も変わらないんだなと先生の講義とか市役所の担当のお話を聞いて思いました。今は私自身はアパートの管理はやっていない状況で、管理を沢山やっている仲間の会社に2社ほどどんな状況ですかと電話で聞いてまいりました。最近特にこの5,6年でアパートが増えまして、昔のアパートと今のアパートは雰囲気が変わってしまっていて、アパートは非常に営利ということで投資用にずいぶんと建てられました。昔のアパートは大家さんが近くに居て、住人が居てという関係性があったのですが、今実際恵庭では本州にオーナーが居たりとか市外に居るなど家主が分からない物件が非常に増えています。それで管理会社が非常に活躍しているのですが、管理会社はやはり、管理費をいただいてごみの管理から家賃管理から周辺管理、共用部分を管理しています。そしてごみの問題というのは非常に悩ましいところで、私が話を聞いたところでは、いくら言っても聞かないので定期的に自ら軽トラに積んでごみ処理場へ直接持って行っているのを聞きました。単身の物件とか学生さんの話を聞いていくと、学生さんはコンビニとかで出来合いのおかずを買って、資源物のほうに入れるのですが、洗ったりとか生ごみと分けて入れるというのが、非常に苦手みたいです。それからペットボトルのキャップとラベルを剥がすというのが分かりにくいみ

たいです。そこで管理会社は自分たちの仕事が増えるわけですから、入居時にごみカレンダーや冊子を配って、入居者になるべくその日にごみを収集してもらえるように説明していますが、結局誰が出したか分からないごみが集積所へ堆積してしまいます。そこでごみ袋を開いて、水道のメーター表や郵便物を見て排出者が特定できればその人へ注意するというのを昔はやっていました。最近の入居者の方は非常に賢い方もいて個人のシュレッダーをお持ちで、シュレッダーされた紙を集めて張り合わせて、排出者を特定するというような、入居者といたちごっこのようなこともやっているというのが、管理会社の現状です。そして堆積したごみの負担は誰がしているのか、大家さんが負担をしているのか聞いたところ、ほとんど管理費から出していて、たまに大家さんが負担をしてくれるということでした。そういうことで部屋からごみを出した瞬間にもう自分のものでは無いし、誰が出したか分からないという心理になってしまっているようです。そこで私が思うのは入居時の説明で、ごみ袋を実際に見せて、このごみはこの袋というようにしっかりと説明をすることで、だいぶ違うのではないかと感想を持っています。

広中室長：ありがとうございます。それでは大沼先生お願いします。

大沼先生：非常に生々しいお話をありがとうございました。お怒りになる気持ちがひしひしと伝わってきましたし、最近は個人情報保護の問題もありますし、昔はごみを開封したりしてましたが、最近のごみを勝手に開けたりするとトラブルになることもあってすごく大変だなと思います。実際にここに来る前に恵庭市さんで行ったアンケートも拝見させて頂いて、やっぱり所有者さんと管理会社さんでずいぶん意識が違うなというのが鮮明で、管理会社さんはすごく苦労していて、特に市内に住んでいない所有者さんは他人事というような感じですし、今もオーナーさんが市内にいない、人によっては本州に居るオーナーさんにどのようにご理解をいただくかというのは、私自身今まで取り組んでいなかったので新しい宿題を得られたという風に話を伺いました。処分費用を管理費から出しているということで、中にはオーナーさんが負担しているということもありましたが、その仕組みをなんとかできないのかなという風に感じました。

広中室長：ありがとうございます。つづいて3人目になります。柏陽町西町内会 茶園会長よろしくお願いします。

茶園会長：柏陽町西町内会会長の茶園です。地域の代表ということでお話をさせて頂ければなと思っております。まず柏陽町の現状ということで話させて頂いて、質問して頂

ければありがたいなと思っております。現状といいますと、山本課長にほとんど話されたので話すことは無いかというところですが、とりあえず現状と問題をまとめて話しますと、まず他市からきた入居者についてはごみの分別事典、ごみ出しの冊子が渡っているはずなのですが、町内会としても町内会独自の分別の仕方を配っています。ただ一戸建ての人は、いつ入ってきたかがすぐに分かるのですが、アパートのひとはほとんどがいつ入居していつ引っ越していったのかというのが分からない状態です。ここから私が考えることを話していきたいと思うのですが、まず、ごみと除雪は永遠のテーマと私は思っていて、マンションの管理会社と町内会でのつながりが必要かと思えます。それで、先程話したとおり、ごみ出し方の情報とかを町内会の名前で出すのですが、町内会に入っていない方は、その情報が届かない。町内会とはちょっと違った位置に居るのかなと思います。あとは、ごみステーションの箱が入居戸数に対して小さいものもある。それでカラスが荒らして周りの人に迷惑をかけているということがある。あとはごみの問題には、高齢化、老齢化というものがあまして、分かっているが意識的に分別しないで出す人もいますが、高齢の方には、カレンダーなどを渡してもごみ出す日や、そもそもの分別の認知ができないという方も最近増えてきているかと思えます。これは、皆さんや町内会長さんも感じていると思います。それから、間違えた分別をした場合、一戸建ての人は恥ずかしいとかそういう気持ちがあると思いますが、アパートの場合は誰が出したか分からないから、先程先生が話したようにひとりくらいいいという気持ちから、だんだんごみが溜まってくる。あとは、ごみステーションの除雪について、しっかりと管理されているところは、周りの除雪をされるが、管理されていないところだと、ただ足で踏み固めて我先にと、ごみを置いて行く。ひどいところであれば夏よりもステーションが汚くなっているところがあります。解決策ではありませんが、アパート入居者の交代制によるステーションの管理や、ひどいところであればごみ捨ての悪い入居者を退去させるところもあります。そこまでするというのは難しいが、マナー改善に向けていろいろな働きかけをすると、直っていくのかなと思います。最終的なまとめになりますが、自分で出したごみは自分で片付けると、ただ、それぞれの立場で、分別周知の徹底や、汚くなっていたら掃除をするというのが必要かと思えます。

広中室長：ありがとうございます。それでは先生いかがですか。

大沼教授：非常に大きな話から、具体的な話までいただきまして、ごみと除雪は永遠のテーマ、私が一生やっても研究に困らないという、研究者としてはうれしいですが、世の中としてはどうなのかなと思います。いくつか、具体的な話で言えば解

決の手がかりもあるのかなと思います。一つは高齢者の方で、認知症までは行かなくともいくら説明しても理解できないというのはあります。そういう方には札幌市でいうさわやか収集とか、収集の補助が必要だと思います。恐らく介護をされている方は介護の方とか付き添いの方がいらっしゃると思うのですが、そこまで行かない方への制度的な盲点もあるのですが、明らかな認知症とまではいかないグレーな方にどうやって手を差し伸べられるのかなというのが一つの大きな課題かなと思います。ただ、自助共助公助では無いですけど、上手く連携できれば出来るのかとちょっと思いながら聞いていました。それから、あんまりひどいと退去させるというのは極端な例だと思いますが、いろんなライフスタイルの方がいらっしゃいます。私が知っている例だと、夜働いていて、朝寝ている方とか、朝早くに出て仕事へ行く方とか、そういう方と何かのきっかけで少し話ただけで、そこから改善されたという例もあるので、粘り強く本人に直接会う。特に若い人は悪気がないので、これ違うよと注意したらまだ改善する可能性で言えば高い、若い人はあまり会えないけどそこで説明したら、改善する事はかなりの可能性が高い。そういう生活時間のずれをふまえて、町内会とか、管理会社、行政の入り方で工夫すれば改善できるかなと感じました。

広中室長：ありがとうございます。3名の方の発表が終わりました。それではここで、質問やご意見を頂戴する時間を設けております。各パネリストの方に聞いてみたいということでもかまいませんので、どなたか会場の皆様からごいませんか。

参加者 A：他の人はあるか分からないが、うちのアパートのごみステーションにごみを捨ててあつという間に逃げていく人が居るのですが。

広中室長：今のご質問はアパートの入居者以外の方がごみステーションに捨てていくというお話だったかと思います。どうですか恵庭市にそういった苦情はよせられているかお話下さい。

山本課長：今おっしゃったお話は聞いております。特に通勤時間帯に職場に行くときかもしれませんが、それは集合住宅だけでなく、一戸建てのごみステーションにごみを置いていくという相談もございます。そういう話があると不法投棄という取り扱いの中で、袋の中身を見て排出者を特定できる情報が入っていれば、恵庭市であれば警察に通報しています。交番の方で持ち主が分かれば、警察と連携して対応をしているのですが、投棄者が特定できなければ、民地であればその所有者、例えば市の管理している公園に捨てられましたとなれば市で対応しているのですが、民地であれば市で回収できないというのが現状です。

参加者 A：それに対して監視カメラをつけるとかも検討していますが管理会社と話してはいる。

山本課長：今回のアンケートの問 3 で、不法投棄対策で何をしていますかと監視カメラのことも質問させて頂いたのですが、所有者で約 3%、管理会社で言えば約 13% います。

参加者 A：あとは収集時間外に鍵をかけるとかもあったけど。

山本課長：ステーションであれば鍵をかければステーションの中に入れられる事はなくなりますし、減ると思いますが、敷地においていく人もいますから。

参加者 A：鍵を壊されるんです。

山本課長：そうなんですか、その話は聞いたこと無かったです。

茶園会長：私も経験ありますが、もし時間があれば、車番を控えておけば警察はすぐ調べられるので、参考までにお伝えします。

広中室長：ありがとうございました。他に何かございますか。

参加者 B：ごみの収集方法が来年から変わるということで、そういうお話が聞けると思ってきたのですが、なんか違うなと思ったところですが、若い人は資源物が汚いまま出して収集されないことがあるのですが、来年の春から収集するようになるのですか。それが聞きたい。

山本課長：来年 31 年の 4 月からの分別の変更についてなのですが、基本的には、燃やせるごみと燃やせないごみの中の品目が変わるのですが、資源物の分別に変更は無いです。ただ例えば納豆の容器とか、汚れが落ちない資源物については、今は燃やせないごみとして、排出して頂いておりますが、来年からは燃やせるごみと変わります。基本的な資源物の収集方法には変更はありません。

参加者 B：汚れているものは燃やせるごみ。

山本課長：今は燃やせないごみなのですが、来年四月からは燃やせるごみに入れて下さいと

なります。

参加者 B：それは皆さんにチラシで知らせるのですか。

山本課長：そうですね、2月には新しい分別事典を市内全戸に配布する予定です。

参加者 C：ごみの収集する日のパンフレットが欲しいと思っていたのですが、そういうのは、市役所にございますか。

山本課長：収集日のカレンダーですね、もちろんございます。地区によって収集日違いますので、欲しい地区言って下さればもちろんお渡しできます。

参加者 D：恵庭市はごみを盤尻でごちゃごちゃに混ぜて投げていて、カラスやらも沢山居ると聞いたのですが、どのように処理しているのですか。

山本課長：今は恵庭市に焼却施設がございませんで、燃やせるごみも燃やせないごみも盤尻で埋め立て処理をしております。ただ埋め方としてはサンドイッチ方式といまして燃やせるもの燃やせないものとうまく順番に埋めて、延命化を図っております。今は全て埋め立て処理をしておりますが、32年4月からは焼却施設が稼働しますので、燃やせるものは全て燃やして、不燃ごみは埋め立てるという形になります。先程カラスの話もしていましたが、いまは汚れの落ちない資源物を燃やせないごみとして排出して頂いておりますので、マヨネーズとかそういったものを狙ってカラス等が来ておりますが、32年からはそういったものは燃やし、盤尻の方へは行かなくなるのでカラスも居なくなるのではないかと期待をしています。

参加者 E：恵庭市の黄金の方にちゃんと分別して捨てる大きなゴミ捨て場があるが、恵庭市もそういったいい方法を考えてキャップならキャップ、ペットボトルならペットボトルというような形で、私も持って行っているが、結構溜まります。資源物が大きな箱にすぐいっぱいになりますから、そういうところを見ると市にもいい方法を考えて欲しいと思います。

山本課長：恐らく黄金のふれあいセンターの近くにある、マテックさんというところがやっているところだと思います。民間の資源物の回収拠点施設、ポイントが溜まればクオカードと交換できるというようなところですが、民間さんが資源物を集めるために作っている拠点になりますが、市としては資源物を週1回無料で収集

しております。じゃあ、各地区にそういった資源物を回収できる施設を造ってみてはという部分かと思いますが、そういった施設を造るにも、先程大沼先生もおっしゃっていましたが、コストがどうしてもかかってきますので、そういった部分も含めて検討しなければいけないのかなと思います。ただ、そういったお話もありましたので、一つの意見としてお聞きし今後に活かして生きたいと思えます。

参加者 E：有料の指定袋の儲かったお金はどこに行っているのですか。

山本課長：有料の指定袋は、いろんなお店に売っており、皆さんがお支払いした代金はどうなっているのかという部分かと思いますが、それはごみ処理場の運転管理の経費に使ったり、ごみを集めるための人件費に使ったり、ごみ処理をするための財源として使わせて頂いています。

広中室長：恵庭市のごみ処理行政に関するご質問については、いつでも廃棄物管理課の方へお電話でも結構ですし、お問い合わせいただければお答えしますし、ごみの分別変更に関する事は出前講座なんかも行っておりますので、地域の方で集まって、教えてくれということがありましたら、私たちが説明いたしますので、そういった出前講座もご利用いただきたいと思えます。その他にせつかく不動産業界の方ですとか、町内会長さんがいらっしゃいますので、そういったことでご質問とかは無いですでしょうか。

参加者 F：今日の講演とは関係ないかもしれませんが、人間の心理として薄暗いところにごみを捨てる。ごみを捨てて目の前からごみが見えなくなればそれでいいという心理が働いて、私の家の近くにアンダーパスがあり、個人的にごみ拾いをしていのですが、一回拾うと 5 リットルぐらいになるのですが、アンダーパスは暗いので、明るくすれば、少しは減るのかなと思うのですが、先生の経験からするとどうでしょうか。

大沼教授：アンダーパスは確かに薄暗くて、薄暗いところに不法投棄をされるというのは、おっしゃるとおりです。これは仙台で行った調査ですが河川敷があって、そこらへんの橋の下で薄暗くてよく不法投棄される場所があったのですが、いくつか対策をして頂き、近づくとぽつと光るライトは少し効果があったので、もし可能であれば、市の何かの助成で、一番捨てられるところにつければいいと思えます。それと、よく捨てられるアンダーパスの下は、雑草とかは生えていますか。

参加者 F：草はそんなに生えてないです。

大沼教授：そんなに生えていないのですね。河川敷とかですと、だいたい膝下ぐらいまで草が生えているところがあって、くるぶしぐらいまで草を刈ると不法投棄が減るというのもあります。アンダーパスにも草が生えていれば、それも大変なのですが、草を刈って頂ければある程度の抑止力になります。先程車で捨てていくのと同じで、通りすがりで捨てていく、「ヒット アンド アウェイ」の方は誰が捨てているのかが分からなくて、捕まえるのが非常に大変なので、捨てさせない雰囲気を作らせるという自衛しかありません。その雰囲気を作らせるために、草を刈るとか、パッと光るライトをつけるとかそういった部分で工夫して自衛するしかないというお答えになります。

参加者 F：アンダーパスは長いので、市のほうでテスト的にでもいいから照明をつけて頂くといいのかなと思いました。

大沼教授：長いって事はトンネルみたいな形であれば、明るくするのが一番効き目があります。トンネルみたいないわゆる地下道のようなところは、明るくしたらごみが減ったというのは、ニューヨークの昔の有名な研究がありますので、明るくするのは維持費大変かと思いますが、最近の LED とかはランニングコストそんなにかからなくて、初期費用だけ市のほうに頑張ってもらえる形になる気はします。